

学 校 便 り

熊本市立託麻南小学校 12月号

2 学期 終業式の話

「サンタクロースっているんでしょうか？」

という本をご存じでしょうか。

サンタクロースっているのと疑問を持った8歳の少女、バージニア。お父さんに聞くと、それは新聞社に聞いてみるといいよ、とアドバイスを受けます。そして、新聞社に手紙を書きます。

米国ニューヨーク・サン新聞のもとに届いた、8歳の少女バージニアからの手紙と、これに答える記者からの返事。

記者さま、私は8つです。

私のともだちに、『サンタクロースなんていないんだ。』といっている子がいます。パパに聞いてみたら、『サン新聞に問い合わせてごらん。新聞社で、サンタクロースがいるというなら、そりゃもう、たしかにいるんだろうよ。』と言いました。ですから、お願いします。教えてください。サンタクロースって、ほんとうに、いるんでしょうか？」

バージニア=オハンロン

この手紙に、当時社説を担当していた記者フランシス・ファーセルス・チャーチが答えます。

「バージニア、お答えします。あなたのお友だちは間違っています。」

「うたぐりやは、目に見えるものしか信じません。うたぐりやは、心の狭い人たちです。心が狭いために、よいうわからないことがたくさんあるのです。それなのに、自分がわからないことは、みんな嘘だと決めているのです。」

「この世の中に、愛や人への思いやりや、まごころがあるのと同じように、サンタクロースもたしかにいるのです。」

とっても素敵なお話です。

私たちはつい目に見えるものばかりを信じてしまいがちですが、目に見えないものも大切なんだという意識を持つだけで世界が変わるかもしれません。

※もう一つ素敵なお話です。朝から、東門で挨拶運動を一人で行っている児童がいます。1年生です。「どうしてしてるの？」と尋ねると。「楽しいから」と答えてくれました。元気な挨拶をしてくれています。元気をもらいました。